

標 題 : Beneficial effect of CETP gene polymorphism in combination with a Mediterranean diet influencing lipid metabolism in metabolic syndrome patients: CORDIOPREV study.  
メタボリックシンドローム患者における脂質代謝に影響する地中海食事と組合せての CETP 遺伝子多型の有益な影響 : CORDIOPREV 研究

---

著 者 : A. Garcia-Rios, et al. (スペイン Instituto Salud Carlos III, IMIBIC/Hospital Universitario Reina Sofia/Universidad de Córdoba and Ciber Fisiopatologia Obesidad y Nutricion, 脂質・アテローム性動脈硬化科)

---

掲 載 誌 : Clin. Nutr. 2018 Feb; 37(1): 229-234

---

要 旨 :

コレステリルエステル転送タンパク (CETP) 遺伝子は、HDL コレステロール代謝に関与する。

しかし、メタボリックシンドローム患者に対するこの遺伝子の影響および食事との相互作用についてはほとんど知られていない。

ここで、低脂肪食事と比較して地中海食事の摂取が、CETP 遺伝子座で rs3764261 SNP と相互作用をしてメタボリックシンドローム患者で脂質代謝を変化させるかどうかを、我々は評価する。

血漿の脂質濃度および rs3764261 遺伝子型を、CORDIOPREV 臨床試験 (NCT00924937) に参加したメタボリックシンドローム被験者 424 人で測定した。

遺伝子-食事相互作用を、1 年間の食事介入 [地中海食事(脂肪 35%、1 価不飽和脂肪酸 22%) 対 低脂肪食事(脂肪 28%、1 価不飽和脂肪酸 12%)] 後に解析した。

rs3764261 SNP と食事パターンとの間の有意な遺伝子-食事相互作用を HDL コレステロール(P=0.006)およびトリグリセリド濃度(P=0.040)で我々は見出した。

特に地中海食事介入の 12 ヶ月後に、少ない T 対立遺伝子(TT+TG)のキャリアである被験者は、多い対立遺伝子ホモ接合(GG)の被験者と比較して高い HDL コレステロール濃度(P=0.021)および低いトリグリセリド(P=0.020)を示した。

対照的に低脂肪介入群では、食事処置 12 ヶ月後に CETP 遺伝子型間で有意な差は認められなかった。

地中海食事はメタボリックシンドローム患者の CETP 遺伝子座で rs3764261 SNP との相互作用による脂質代謝を引き起こす役割を演じる可能性があるとの見解を、我々のデータが裏付ける。

遺伝子-環境相互作用の複雑な性質のために、メタボリックシンドローム患者における食事調節は個人別の取り組みを必要とすると思われる。

キーワード : コレステリルエステル転送タンパク多型、冠動脈疾患、脂質代謝、地中海食事、メタボリックシンドローム、トリグリセリド

---